

朝日山だより

お見舞い

この度の令和6年能登半島地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

皆さまの安全と、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

社会福祉法人 あさひ会

社会福祉法人 あさひ会

- ・生活介護事業所 朝日山学園
- ・グループホームあさひ
- ・ヒューマンサポートタッチ
- ・佐賀県東部発達障がい者支援センター
〒841-0073
佐賀県鳥栖市江島町字西谷 3300-1
TEL (0942) 84-3266 (本部)
(0942) 81-5409 (支援室)
FAX (0942) 84-3286

～ 巻 頭 挨拶 ～

グループホームあさひ 管理者 菅 洋平

令和6年がスタートし、未だコロナウイルス感染症への不安とインフルエンザの猛威に直面しておりますが、新たな気持ちで利用者の皆さんの生活をサポートしていきたくと思います。今年もよろしくお願ひ致します。

また、先の令和6年能登半島地震におきましては、被害に遭われました方には心よりお見舞いを申し上げます。

相次ぐ自然災害の被害を目の当たりにし、高齢者施設や障がい者施設の被害を見聞きします。災害時に於いて通常は避難所などに避難をするケースが想定されます。しかしながら、避難所には多くの方たちが避難され、避難される方たちも大きな不安の中での避難になります。そのような中で一緒に避難所で生活することが可能なのかと考えてしまいます。

重い障がいのある方にとって、少しの変化が生じた場合でも不安な思いが強い方たちが、避難所での生活は環境に大きな変化が生じ、不安の中での生活になると思われます。そのような中、兼ねてより事業継続計画(BCP)の作成が進められてきました。法人でも計画を進めています。計画を進めていく中で、災害時の生活を可能な限り通常に近い状態で生活できる状況にできないものかと考えます。被害があったとしても、慣れた場所で少しでも生活できる事が可能であれば不安の軽減になるかと思ひます。そのためにもこの計画を通して準備を進め、訓練を通じて利用者の方の不安はもとより、支援者側の不安も少しずつ軽減できるものになればと考えます。

そのうえで、地域の方の避難先にもなればと考えます。グループホームの周辺には地域の方の住まいがあります。その方々が安心して避難できる場でもあることが地域で生活する中での理想ではないかと思ひます。

いつ何時、災害に遭遇するかわかりません。コロナウイルスのような感染症が蔓延するかわかりません。

災害に遭遇しないに越したことはありませんが、万一、有事に遭遇した場合の事を今後も継続して検討を重ねていかねばならないと改めて感じさせられました。

これまで以上に法人全体で連携を図り、利用者の方が安心して、安全に生活して頂けるように取り組んでいきたいと思ひます。

最後になりますが、現在グループホームで利用者の方の生活を支えるスタッフが不足し、募集を行っております。興味のある方のご連絡をお待ちしております。何卒よろしくお願ひいたします。

～行事報告～

【12月】 クリスマス会

日中活動とは違う雰囲気を楽しむ利用者の方々の笑顔や、司会進行・乾杯の挨拶の役割、音楽発表・釣りゲームを自信を持って取り組む様子も印象的で、皆さんの成長を感じる機会になったクリスマス会でした。



【1月】 初詣

千葉八幡宮、七木地藏尊とグループに別れて参拝しました。千葉八幡宮の境内まで階段を上るグループの方々は、146段を踏みしめながら皆さん最後まで登ることができました。今年も利用者の皆様が一年を無事に、穏やかに過ごせますように。



【2月】 節分会

毛糸巻きや貼り絵をなど、利用者の方々の得意な作業を活かし、役割分担しながら学園オリジナルの鬼が完成!! 鬼をつけた箱めがけ「鬼は外」目の前の新聞紙玉を夢中に投げ入れ、学園ならではの節分会となりました。



バレンタイン

女性利用者で手作りチョコ作りやカード作りを分担して、皆さんに配りました。今年度は久しぶりに利用者の方の手作りチョコです。女性利用者の方から直接手渡しされ、配る側も、もらう側もお互いに笑顔になれる、特別な時間となりました。

～日中の取り組み～

【Aさんの作業エリアの環境調整について】

朝日山学園 支援主任 中西 麻衣佳

コーヒーやコーラ、車等、好きなものが沢山あるAさん。Aさんのお仕事の一つとして、ペットボトルのラベルを剥がし、ボトルとラベルに仕分けするリサイクル作業に日々取り組まれています。聴覚から入る刺激の過敏さに加え、他の利用者の方との相性で苦手な方が視界に入ると、場面によって耳を塞ぎ、焦りながら作業に取り組む様子や、Aさんなりの回避行動として、作業道具を持ち出し違う場所で作業に取り組む日もありました。またAさんが取り組む活動エリアでは、他の方の作業後にペットボトルとラベルの仕分けをすることも多く、ペットボトルやラベル入れのケースから、ペットボトルやラベルがあふれることも多く見られました。スタッフが袋を交換しようとしても、Aさんは作業を終わらせる事に一生懸命なので、当然スタッフのアプローチも受け入れてくれません。現状を改めて見直し、Aさんにとって作業エリアの環境設定がきちんとされていない課題が浮き彫りになりました。

Aさんが安心して作業に取り組める事を目標に、①作業エリアの変更 ②作業時に使用するケースの作り替え ③Aさんへのお伝え について取り組みました。

まず、①の作業エリアの変更は、Aさんが一人で安心して作業に取り組めるよう、動線を意識して別の場所にAさん専用の作業エリアを新たに設けました。

次に、②の作業時に使用するケースは、今までボトルを入れる際に両腕で抱えながら一気に入れることで、ケースからボトルがこぼれてしまっていた為、入れやすいように容量と高さを調整できるものを作成しました。それぞれのケースにラベルとペットボトルの写真を貼り、どこに何を入れたら良いか、Aさんが見てわかる工夫も取り入れました。

③のAさんへのお伝えは「いつ作業場所が変わるか」「どこから作業材料をとり、どう進めるか」伝える内容もシンプルな言葉を使ったお知らせの作成と、写真付きの作業工程表も準備しました。

実際にAさんへお伝えをし、初回は今までの習慣で元の場所に向かう様子も見られました。再度場所をお伝えし、新たな作業を一度見渡すAさん。まだ戸惑いも感じらていた為、ラベルとペットボトルを入れるケースに貼った写真をスタッフが指をさすと、作業に取り掛かることが出来ました。その後は作業の回数も重ね、新たな作業エリアにも慣れた様子で、今では焦って作業に取り組む様子も見かけなくなりました。これからも、利用者の方が安心して、自信をもって取り組むことができる環境作りを心掛けていきたいと思えます。



① 新しい作業エリア ②作業用ケース



～新しい職員の紹介～

☆朝日山学園☆

○宮本 茂子さん

令和6年3月より調理員として入職しました。利用者の皆様との関わりを通して、皆様のお食事が楽しい、ひと時になれるように、頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

◎寄付者ご芳名

令和5年8月 ～ 令和6年2月

佐藤香代子様 愛甲 強 様 天本喜代子様 中原千工子様 福島多恵子様 上尾 央子様
 内田 孝喜様 黒木 隆 様 大坪 麻子様 廣瀬耕三郎様 匿名 様 末藤久美子様
 久保 正義様 内田ハル工様 角 勲 様 鈴木 洋二様 三木 洋子様 田中 洋子様
 有家 綱雄様 上田 裕介様 匿名 様 上尾 洋一様
 うえだ歯科・矯正歯科クリニック院長 上田 昭彦様
 うえだ歯科・矯正歯科クリニックの募金箱に募金頂いた皆様

クリスマス会

末藤久美子様 鈴木 洋二様 廣重 新興様 鈴木 洋二様 原口 敏子様 西久保正子様
 桑原美智子様 愛甲 強 様 廣瀬耕三郎様 医療法人野田内科理事長 野田 芳隆様

以上の皆様にご支援いただきました。ありがとうございました。

◎9月～2月行事等【朝日山学園】

9月	1	ケース会議
	15	ケース会議
	18	祝日企画；レクリエーション
	19	献立会議
	22	嘱託医往診研修
	23	TEACCHプログラム研究会
	29	職員会議
10月	6	ケース会議
	9	祝日企画；創作活動
	14	令和5年度 佐賀県西部発達障害者支援センター 地域啓発支援事業研修会
	18	献立会議
	20	ケース会議
	23	鳥栖・三養基地区自立支援協議会 地域研修会
	27	職員会議
11月	3	祝日企画；清掃活動 職員会議
	10	ケース会議
	15	誕生会
	16	鳥栖・三養基地区自立支援協議会 地域研修会
	21	献立会議
	23	祝日企画；創作活動
	24	職員会議

12月	1	ケース会議
	6	誕生会
	14	献立会議
	20	クリスマス会
	22	ケース会議
	4	新年利用開始
1月	5	ケース会議
	8	祝日企画；20歳を祝う会
	12	ケース会議
	18	献立会議
	21	TEACCHプログラム研究会
	23	誕生会
	26	職員会議
	30	ぜんざい会
	22,25,26,29	初詣；千栗八幡宮
	29,30	初詣；七木地藏尊
2月	1	第4回くらしの支援部会
	2	ケース会議
	5	節分会
	9	ケース会議
	14	バレンタイン企画
	15	献立会議
		外部研修
	21	誕生会
		鳥栖・三養基地区自立支援協議会 全体会
	25	職員会議

*料理教室 10月・2月 *音楽活動 9月～2月（グループに分かれて実施）

*利用者健康診断 10月～11月

□編集後記

令和5年度を振り返る時期を迎え、今年度も行事や日々の取り組みから学ばせて頂く機会も多くなりました。コロナウイルスが5類へ移行し、間もなく1年が経とうとしています。感染症対策が前提の中でも、行事や取り組みに、良い変化を取り入れて、利用者の皆様が学園を利用して良かったと思って頂ける様に取り組んでいきたいと思っております。（江藤）